

ダイキン インドネシアで森林保全活動に取り組む  
「“空気をはぐくむ森”プロジェクト」を展開

「環境エネルギーネットワーク 21」主任研究員 岸本 哲郎

現在、世界では開発と言う名の下で森林が伐採され環境破壊が進んでいます。森林は CO<sub>2</sub> を吸収する能力があり、森林の減少は CO<sub>2</sub> の増加による温暖化を加速させることとなります。

アマゾンの熱帯雨林では大規模な森林火災がいたるところで発生し広大な森林が失われつつあります。アマゾンの熱帯雨林は地球の酸素の 20%を供給していると言われ、この火災が地球温暖化に深刻な影響を及ぼす虞があると同時に貴重な生物の宝庫への影響も懸念されています。

森林の保全は地球環境を守るために人類が取り組まなければならない課題でもあります。

冷凍空調機器の世界的メーカーであるダイキン工業は環境保護への貢献のために、地球環境保全でパイオニア的な役割を果たしている国際 NGO コンサベーション・インターナショナル (CI) や (公財) 知床財団などと連携し世界 7 か所で森林を保全する「空気を育む森プロジェクト」を実施しています。

2024 年までに 1100 万 ha を保全し 700 万 t-CO<sub>2</sub> の削減を目指しているとのことです。

またインドネシアでも同様に森林保全活動に取り組んでいて、グヌングデ・パングランゴ国立公園において豊かな森林のエコシステムを再生保全していくことを目的として活動を続けています。ダイキンはこの活動を 2008 年から行って、荒廃した土地に木を植えるだけでなく、地域にアグロフォレストリーやエコツーリズムなど森林伐採に代わる生活基盤の確立をめざしています。

プロジェクトは約 300 ヘクタールにおよぶ森林と植物の“グリーン・ウォール”を創生するように設計されています。コミュニティ・メンバー 33 人と国立公園スタッフ 17 人により毎月モニタリングされており、2017 年 11 月の調査では植林された 12 万本のうち、95%にあたる約 11 万 5 千本が順調に生育しているということです。

このプロジェクトはインドネシアや日本だけでなくブラジル、リベリア、中国、インド、カンボジアでも展開しています。



インドネシアのスタッフ JARN, March 25, 2019 掲載写真

ダイキン・サステナビリティレポート 2019 から